



## 「疎開」より町民の「日常の安心」

23日まで開かれた3月定例会の一般質問で、安住は寺谷誠一郎町長に智頭町が直面する10課題について問いました。その結果、町長が打ち出すキーワード「疎開」に対する安住の疑念はいつそう強まりました。

10項目は、財政難にあえぐ智頭町の事業の立て直しや、町の活性化のために行うべき事業など、いずれも今、「町民の日常」のために、本気で取り組まなければならぬことがらです。寺谷町長の答弁からは「町民の日常」より「疎開者の癒し」の方が優先する政策しか伝わってきませんでした。

例えば、歳入確保と不公平をなくすため必要な滞納の徴収策について、「2005年より滞納整理対策本部を設置。県とタイアップしたり、法的処理などの対策を講じている」と回答するにとどまり、陣頭指揮（矢祭町長は自ら徴収に出向く）を執る姿勢を示しませんでした。しかし、その滞納額は年々増加しています。

また、NHKテレビや全国紙にも取り上げられ、反響の大きい議員報酬の適正化問題ですが、安住の質問に町長は「悩ましい問題、町長の言うべきことに非ずと考える」と回答。これで町民の納得が得られるとは

思えません。

若いお母さん方から安住に寄せられた「子供を遊ばせる場所がない。児童公園が欲しい」との要望もぶつけましたが、「智頭町は工夫すればどこでも公園。人工的な公園より自然のなかで遊ばせる方がよい」と、町長提唱の「森林セラピー」（予算2200万円）に比べ冷淡な答弁だった。

小学校統合、中学校改築の時期についての明確な答弁は得られず、また、「補助金裁判」の見通しについての質問には「特別代埋人を設置しており、私は答えません」

その他の主なQ&A（要旨）は次の通り。

安住「下水事業健全化のため接続率向上を」

町長「チラシ等で啓発し、対処したい」

（このままでは建設費償還や維持管理費不足で繰り出し金の増大は必至で使用料アップの危惧も）

安住「智頭病院の患者増加策としてすぎっ子バスの近隣町村への運行延長を」

町長「法令により有償運行は不可」

（通院者に限る無償運行など工夫せよ）

安住「県立の中高一貫校を誘致する意向は」

町長「考えていない。」誘致運動はしない」

◎ 安住は今後とも「町民の日常生活の安心」を大切にする町政を求めていきます。